

平成26年度 酒田市公益活動支援補助金 交付事業の概要

No.	団体名	事業概要	事業実施内容
1	NPO法人 みなと研究会	地元で捕れた魚資源を有効的に活用するため、地域に伝わる「魚醬づくり」を一般市民とNPOが手作りする。	①10月26日(日)の農林水産祭りに出店し、魚醬うどん、そばの試食会を開催(試食者300人)。 ②魚醬造りの出前講座を実施。年3回、参加者延べ43名
2	酒田方言あそび 研究会	地域の歴史・文化がつまった財産「酒田方言」の魅力を語り継ぐため、酒田方言の収集や啓蒙活動を行う。	①酒田データベースの制作・改善。(地域別、用途別に分類して収集する仕組みとした) ②各コミセン等で酒田方言に関する出前講座を計6回開催。参加者延べ235名。小学校の児童等を対象として方言を次世代に伝えていく啓蒙活動となった。
3	知的財産権 フォーラム酒田	知的財産(資産)活用で地域産業のさらなる活性を目的とし、新開発商品の工業所有権、著作権等の権利取得により、売れる商品づくりを目指す。	①「知的財産講習会」の開催。全3回、参加者23名。 ②月例会の開催による権利化、商品化等の技術的な部分の相談受付。参加者73名。 ③新商品試作品の製作補助と先行技術調査。 ④酒田産業フェアの参加ものづくり、模型ヒコーキ等の制作補助。子供たちの参加者130名。…等知的財産権の普及活動を行った。
4	show naight 実行委員会	庄内の自然、食材、人との繋がりの三本柱を本イベントで表現し、私たちの住むまちの魅力を参加者に再認識してもらうとともに、酒田で生きる価値を見出していく。	8月31日(日)に北港緑地公園で音楽イベントを実施。市内外のアーティスト6組が出演し、出店19店舗。参加人数449人(小学生以下含まず)。
5	NPO法人 酒田みなとまちづくり市民会議	みなとオアシスマつりにおいて、市民の参加・酒田港への関心・イベント性を高めるため、若者に人気の「スマホ」を使って会場内を楽しく回遊させ、酒田港の魅力を知ってもらう。	7月26日(土)の2014年みなとオアシスマつり会場にてイベント「ゆる☆スタ～真夏の大冒険」を実施。あらかじめ会場内にQRコードを設置し、専用アプリと設置したQRコードを使いピンゴゲームを楽しむことで、会場内を楽しく回遊させ、酒田港の魅力を知ってもらう機会となった。参加者60名。
6	庄内傘福研究会	地域の宝でもある「傘福」を、その地域の歴史と特色を活かし保存・継承に努めることを目的とし、清亀園での古傘福の展示などを行う。	①長淵寺の大正期の傘福の修復をはじめとする地域の傘福修復復元、継承の手伝い。 ②清亀園での「古傘福と古典人形」の展示(27年3月1日～31日)。3月28日庄内町長南一美氏の語り部による「むかし話」の開催。期間中166人が来館した。 ③清亀園での「ミニ講演会と傘福体験講習会」の実施。光伝寺の住職による講演や傘福の修繕に関する意見交換など。50人が参加。
7	かたりべ玉てばこ	酒田の昔話を後世に伝え残すと同時に、読み聞かせや紙芝居をとおして廃れがちな「わらべ歌」や「昔話の歌」なども次の時代へ繋げる。	①「心をつなげよう歌の力」と題してわらべ歌、読み聞かせ活動開催。(浜田コミセン等9箇所で開催) ②7月17日(木)に歌「二宮金次郎・とおりゃんせ」に纏わるエピソードを学ぶ移動研修を実施。
8	公益社団法人 酒田青年会議所	小学生から高校生までの若年層に、まちの歴史・伝統・文化を伝承・継承することができる正しい歴史認識を身につけてもらうため、幅広い世代が読みやすい「漫画」を作成する。	漫画版「酒田の歴史書」を作成し、電子データ(CD-R100枚)にして酒田市内の教育機関や各学校に配布。
9	まつきち子育て 応援プロジェクト	少しでも子育ての悩みを改善し幸せな親子が酒田に増えるよう、食を見直し、子どもの心や体を健康に育てるための、食育講座を開催する。	10月4日(土)に酒田市総合文化センターで「食育教室」を開催。23人の親子の参加があった。親子でのおにぎり作りをした他、「食」に関するクイズ形式の教室を実施した。